日鉄住金工材
改善・安全活動を再構築
▷上◁
スモールミーティングで〝感度〟向上

日鉄住金工材（本社・上越市、社長・石川昌弘氏）の改善活動と安全活動が着実に〝深化〟している。石川社長の就任以来2年間で、抜本的な改善活動に着手。かつて製鉄所等で取り組んだ施策を中小企業向けにアレンジし、成果が数字（収益体質の改善）として表れている。2回にわたって「安全活動」と「改善活動」の具体的手法を紹介する。

（杉原　英文）

KY活動を映像で記録

14年11月29日に休業無災害3300日（9年間）を達成し、一般企業が目標とする3千日を大幅に超えた。中小規模の会社では例の少ない安全活動を行っている。特徴的なものは、安全巡視時に災害リスクの高い作業を抽出し、社長と幹部の目の前でKY（危険予知）活動と実作業を実演、即座にその場で担当者や組合と議論し、評価・改善を行う。最後に石川社長が総評。その「演技訓練」の状況を動画で記録、社内のイントラに掲示し、他の職場も共有化する。

安全訓練の様子

一例ではバランスを取るのが難しい大型製品をクレーンで吊り上げた際の危険予知や、周辺の整理整頓を徹底的に洗いなおす。その際は上司部下関係なく遠慮なく意見交換する。

また、安全巡視議事録には発見した問題個所すべての写真を添付、解説を付けて全職場にメールし類似問題個所がないか確認する。

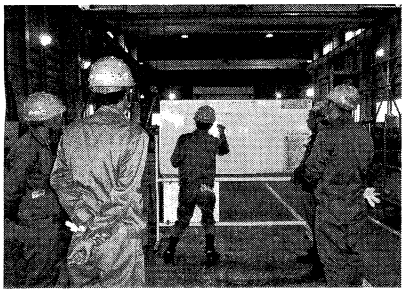
他社の災害を教訓に全社一斉点検

新聞記事の他社労働災害等も教訓にし、横展開を図る。記事の重要度をチェックするのは石川社長自身。トップが類似災害防止を重視していることが現場に伝わる。

その都度全社で実態確認と対策を迅速に実行する。法律上の義務や必要な安全管理を分かりやすく伝え、全職場・全装置について一斉に安全装置の有無、機能の確認、動作の正常性、職場ルールなどを点検する。

リスクアセスメントの再構築

リスクアセスメントは①リスクの抽出②リスクの評価（採点）③リスク低減策の検討④リスク低減策を実施し再評価する、などの体系的な取り組み。設備、行動、作業環境面から抜き出したリスクをつぶしていく手法だ。過去に実施したが安心せずに、範囲を広げ再度有効性の確認を行っている。


その場で危険要因と対策を議論

設備毎に法令順守

設備毎に法令順守事項は異なっている。膨大な関連する法令を設備毎に照会する「設備に係る法令チェックリスト」を作成した。

多種類作業時のリスク管理

一つの職場で各人の作業内容、作業範囲が異なる場合があり、KYを職場統一しにくい。そこで誰にでも危険と価を得た。

KYが一目で分かるようにKYボードを工夫した。ボードの横列に想定される事故の種類とKYが予め多数記入してあり、縦列に当日の作業者、作業内容を記入し、各人と事故がクロスする部分にマグネットを置き更に具体的対策を記述することで各人がしっかりKYしたことを直ぐに確認できるようにした。

14年9月、中央災害防止協会による「中小規模事業場安全衛生サポート事業」の会社点検の際は「概ね良好な安全管理で法対応はハイレベル」「KYボードは良い工夫」との評

こうした取り組みを地道に重ね休業災害防止に向け努力している。

石川社長は「近年安全感度が極めて上がった。スモール（小集団）ミーティングで安全を始め品質・環境などについて不安、気がかり等どんなことでも発言する活動を始めた。積極的に発言できる素地ができたことは最大の進歩」と手応えを感じている。